

令和3年7月7日

浜松市長
鈴木 康友 様

浜 松 市 議 会
市民クラブ 所属議員一同

新型コロナウイルス感染症に対する提言（第5回）

市民クラブは去る6月4日に、4回目となる「新型コロナウイルス感染症に対する提言」を行い、ワクチン接種対応などを重点的に浜松市に提言したところであるが、ワクチン接種を取り巻く環境は日々変化し続けており、市民にとって理解しにくい状況にある。

一方、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けては、聖火リレーの実施など、粛々と準備されているが、大阪の泉佐野市ではホストタウンとして迎え入れたウガンダ選手団に感染者が発生するなどもあり、ブラジル選手団のホストタウンである浜松市も、同様の課題への対応が求められる状況にある。

私たち市民クラブは多くの市民から寄せられた声を基に、別紙の通り5回目となる緊急提言を行うものである。

No	市民クラブ提言	行政対応
	1. 医療体制について	
①	軽症の患者が在宅療養を希望しても容体の急変時に対応できる見守り体制を確立できない場合には、宿泊施設利用を必須にすべき。	
	2. ワクチン接種について	
①	接種券は住民登録を元に発行しており、企業駐在員など海外から日本国内に一時帰国している方（浜松市内に住民登録なし）には届かない。本市には海外展開する企業が多く、対象者は少なからずいるため、横浜市の様に本人申請による接種券の発行と優先接種対象にすべき。 また外国人で浜松市に在住しているものの住民登録をしていない方の接種についても方法を明確化すべき。	
②	仕事などで昼間の接種が困難な方の為に夜間の接種体制を準備すべき。	
③	複数の集団接種会場閉鎖が予定されているが、接種率がまだ低いにも関わらず違和感を感じる。また集団接種のザザシティ会場は7月17日からファイザー製に代えて武田・モデルナ製ワクチンを使用するとある。それぞれ理由を明確化し市民理解を得るべき。	
④	個別接種を望む場合、既にかかりつけ医の予約可能枠が無い場合が多い。空きがある医院を紹介する仕組みを設けるべき。	
⑤	集団接種会場で当日キャンセルがあった場合の対応を検討すべき	
⑥	新型コロナワクチン接種に関する情報提供・相談対応については、障害者へも広く伝わるよう広報誌やホームページなどに掲載した情報を手話言語動画で提供すべき。また接種会場での説明時や医師などの問診時に、きこえない・きこえにくい人が安心して接種を受けられるために、筆談に加えて手話通訳者や要約筆記者の配置や、タブレット等での遠隔手話通訳が利用できるように情報保障をすべき。合わせて、手話通訳者や要約筆記者、盲ろう通訳・介助員等の優先接種を行うべき。	
⑦	ワクチン接種の際の情報保障を行う手話通訳者、要約筆記者には、感染防止の観点から医療従事者と同様の手袋やマスク、フェイスシールドなどの支給をすべき。	
	3. その他	
①	現時点に於いてもオリンピック・パラリンピックのブラジル選手団受け入れに不安を感じる市民がいることから、6月30日に国が改定したホストタウン向けオリンピック・パラリンピック選手団の受け入れ指針に基づき、浜松市のマニュアルも改定するべき。加えて受け入れた選手団からの陽性者が確認された場合の医療対応を含めた感染拡大対策を行うべき。	
②	オリンピック・パラリンピックのパブリックビューイングは、100名定員に絞って開催という事だが、不安を感じる声もある。参加者は選手の身内や学校の後輩に絞るなどして行うべき。また今後の感染状況によっては中止も含めて検討するべき。	